

「製品認証取得の会員紹介」⑬

オーハツ株式会社 本社工場

今回は、発電設備メーカー「オーハツ株式会社」(芝谷康之社長)の本社工場を取材した。同社は大阪府富田林市甲田3丁目5-11にあり、汎用タイプの発電設備から特殊仕様の単品生産までを本社工場で一貫して生産を行っている。非常用・防災用発電設備、様々な発電設備の部品として採用されている発電機などの開発・生産を展開している同社の取り組みについて紹介する。

創業の経緯

オーハツの創業は、現社長の実父である芝谷富之助氏が昭和14(1939)年11月、大阪市中央区で発電機や電動機を商う「個人商店」を設立したところから始まる。その後の事業拡大に伴い、昭和18(1943)年12月11日付けで、個人商店から「大阪発電機株式会社」へと組織変更を行い、初代社長には創業者である芝谷富之助氏が就任した。創業時は、船舶・鉄道車輛・メッキの電解用直流発電機、交流発電機、電動機などの製造を行っていた。

昭和30(1955)年8月、大阪市中央区の本社工場の増改築に併せて、当時最新鋭の加工機械を導入するなど設備投資を積極的に推進し、製品ラインアップを拡充していった。そうした取り組みが功を奏し、製品品質が高い評価を受け、昭和33(1958)年4月、相手先ブランドであるOEM方式による製品供給として、ヤンマーディーゼル(株)



(当時)のディーゼルエンジン駆動式可搬形交流発電機「エースライト・エースパワー」の生産を開始した。同製品の発電出力は3~10kW。さらに昭和35(1960)年1月から、同様の供給方式により、可搬形溶接機についても生産を開始した。それにより、生産規模の拡大と併せて、経営安定化にもつながり、同社は発展を遂げていった。



自動ノッチングプレス機械(上)と加工された製品



オーハツ株式会社の本社ビル。支柱の上に風力発電装置がみえる(上)都市部での普及が期待される太陽光とのハイブリッドタイプ「シティ・ウインド型風力発電装置」



昭和43(1968)年9月には芝谷寿美枝女史が2代目社長に就任するとともに、翌昭和44(1969)年10月には会長に昇任した。後任の社長として、現社長の芝谷康之氏が就任した。昭和59(1984)年9月には現在の「オーハツ株式会社」へと社名変更を行い、今日に至っている。なお、芝谷康之社長は、平成16(2004)年5月、電機業界における永年にわたる活躍・功績が認められて、社団法人日本電機工業会より永年功労者としての表彰を受けた。

同社は平成19(2007)年時点で、資本金6,000万円、売上高22億円、従業員数80人。同社は株式会社の設立時から数えて、今年で66年目を迎える。

富田林工場の完成

オーハツは昭和39(1964)年2月、生産拠点となる「富田林工場」を完成し、本格操業を開始した。この富田林工場は、同年に大阪通産局長より優良企業として表彰さ



発電装置の組み立てライン



完成した発電装置

れ、また、昭和40（1965）年11月には通産省中小企業庁長官より優秀企業として顕彰を受けた。さらに同社は昭和61（1986）年1月、富田林工場を拡張して「新工場」とした。それを機に、昭和63（1988）年3月、大阪市中央区にあった本社事務所と工場を新生・富田林工場へと統合を図った。

そうした生産能力の整備拡充と併せて、一層の品質向上にも努めていった。昭和50（1975）年以降、消防法の改正に伴い、日本全国で防災用自家発電設備に対する需要が急速に高まっていった。それを踏まえ、防災用発電設備などの製造・販売を手がけるオーハツは業界にさきがけて昭和50年5月、設立直後の社団法人日本内燃力発電設備協会の実施する「自家発電設備形式認定」を取得した。また、同社は平成11（1999）年12月、品質保証に関する国際規格「ISO 9001」の認証登録を取得しており、それに基づいて自家発電装置および自家発電装置始動用蓄電池設備の設計から開発、製造、付帯サービスまで一貫して取り扱い、高品質の製品供給に向けて取り組んでいる。

個別ニーズにマッチした製品群

オーハツの生産現場では、原材料を必要な量だけ調達して必要な台数だけを製造する「かんばん方式」をもとに独自改良した「Z方式」を採用している。Z方式とは、半製品の供給ライン、出荷検査ライン、出荷調整ラインという異なる3つのラインをZ字状に組み合わせて集約的に生産する方式であり、これを採用している。また、機械加工工程では、少量・多品種に対応するため、例えば発電機の性能を左右する心臓部分であるコア加工には全自動ノッチングプレス機械を採用している。それにより、オフィスや店舗、工場といった様々な顧客ニーズに個別に対応することが可能となった。発電容量から設置場所、形状・素材などマイナーチェンジからフルオーダーメイドまで顧客ニーズに対して、よりマッチした非常用・防災用発電設備、様々なタイプの発電設備の部品として採用されている発電機ステーター、発電機ローターなどを開発・生産している。

売上高22億円の製品別シェアをみると、100kW未満の非常用・防災用・設備用発電装置90%、発電機盤・自動制御盤・配電盤8%、可搬形ディーゼルエンジン発電機2%となっている。主な製品は、発電容量5～500kVAの低騒音形「防災用発電装置」、優れた操作性・保守性を実現した同5～500kVAの「非常用発電装置」、2段積みも可能にした同25～400kVAの極超低騒音形「可搬形発電設備」、コンピューター、通信機器向けに長時間対応を実現した「超省



完成検査のライン



出荷待ちの発電装置

スペース立形空冷発電装置」、高周波発電など「特殊発電機」、発電機自動制御盤、遠隔監視・操作盤など「各種自動制御盤」、容量90～2,000L対応可能な「別置燃料タンク」までバラエティーに富んでいる。顧客の環境意識の高まりを受け、オーハツは新エネルギーを使った発電システムの開発にも注力している。風力発電機と太陽光発電機を一体化した定格出力500Wの「シティ・ウィンド型風力発電装置」を商品化した。特徴として、複数個の永久磁石を採用したことや特殊結線により、定格の30%の低速回転から定格の140%の高速回転まで幅広く対応可能なため微風でも回転し、安定した電力を得られる。公園や駐車場の照明用電源として積極的な市場開拓に取り組んでいく。